

倫理 第43回「理性主義の見直し ～精神分析学と構造主義～」

○今回のポイント

1. 精神分析学

(1) 【① _____】 の思想

近代の理性主義は、生命体としての人間の「内なる自然」(感情・衝動・本能など)を抑圧し、統制する



人間とは「理性」だけが全てなのか？

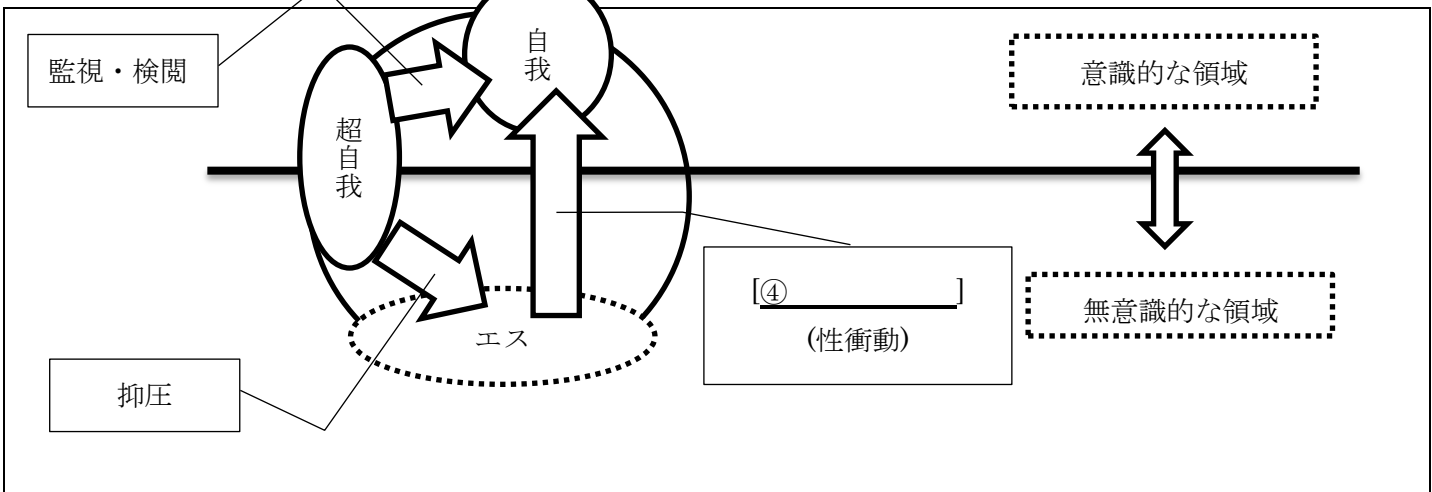


「② _____」に着目！！



○ 【③ _____】 …人間の行動や神経症を、深層心理を解明することによって説明し、治療しようとするフロイトの創始した理論。

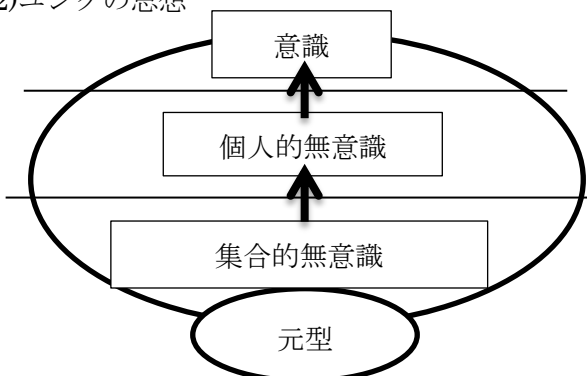
☆心の三層構造



☆フロイトは、エス・超自我・自我によってココロの全体を説明しようとする。

- ・ a. 【⑤ _____】 …生命体を支える原始的で野性的な本能の領域。エスには人間を突き動かすリビドー(性衝動)が渦巻いており、快楽原則に従うように自我に働きかける。例) 勉強なんてしたくない！！
- ・ b. 【⑥ _____】 …両親の教育などによって刻み込まれた社会規範の領域であり、自我を統制し、エスを抑圧する。例) 勉強をしないと、低賃金肉体労働者に転がり落ちるよ！！
- ・ c. 【⑦ _____】 …エスや超自我の働き、外界からの刺激などを調整する働きを担っている。
例) 勉強したくねーけど、しないとよくねーから、とりあえずまあ宿題くらいするか・・・

(2) ユングの思想



☆ 【⑧ ユング】

フロイトの弟子であったが2つの点で対立し離反した。

a. リビドーについて

⇒フロイトはリビドーを性的衝動ととらえたが、ユングは多様なリビドーを想定した。

b. 無意識について

⇒ユングは個人的無意識の背後に個人を超えた【⑨ _____】的無意識を想定した。人類は【⑩ _____】を保有しており、民族を超えて類似する神話などを生み出した。

2. 構造主義

(1)[⑪]]とは何か？

⇒ある事象の意味を、それ自体に求めるのではなく、それらの事象を関係づける社会的・文化的な [⑫] (構造)から理解する思想的な立場。20 世紀半ばのフランスではサルトルの実存主義が潮流していたが、60 年代になると構造主義が台頭していく。

Ex.働きアリの法則

働きアリは集団のうち 2 割ほどが実際には働いていない。この働いていないアリを取り除いても残りのアリの 2 割は働くのをやめてしまう。このように働きアリを理解するためには、個体をいくら詳細に観察しても駄目で、役割分担を担っている集団を全体の構造(システム)でとらえる必要がある。

↓

社会とは理性的存在としての個人の総和なのではない。個人を秩序付ける構造が個人に先立つ。

(2)[⑬]]

- 構造主義の源流となった構造言語学を唱える。社会的に形成された言語習慣の体系を [⑭]]と呼び、それに基づいて成立する個人の発話行為(会話)を [⑮]]と呼んだ。(※ラングは構造やシステムとしての言語体系。英語の文法には 5 文型の構造があるようなもの。日本語では主語+修飾語+述語となる。)
- 個人の具体的な発話行為(パロール)は、それらが要素として属する言語体系(ラング)の中で関係づけられることによって意味を持ち、その体系の外では何の意味も持たない。(日本語のラングの中での「りんご」というパロールは英語のラングのなかでは「apple」というパロールであり、何の意味もない。)

(3)[⑯]]

a.[⑰]]…未開社会の思考方法。西欧的でない民族社会にも文明社会と同じように構造がある。

Ex.レヴィ=ストロースは様々な民族社会の親族・婚姻関係を調査。どの社会の親族関係も「近親相姦を禁止する([⑱]])」構造になっている。それは何故かということ、近親相姦を禁止することで、女性を他のコミュニティと「交換」することができ、これにより様々な外の共同体の文化を自分の共同体に組み入れることが出来る。

b.[⑲]]…文明社会と未開社会には大きな違いがあるけれど、それはけっして優劣の差ではないという考え方。未開社会の人たちは、西洋人が考えるように無秩序で非合理的な生き方をしているのではなく、非西洋的ではあるが、論理的な規則に従った生き方をしている。

(4)[⑳]] 主著『言葉と物』、『監獄の誕生』、『狂気の歴史』

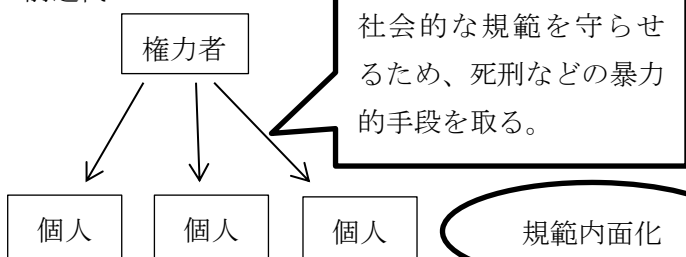
近代的な<人間>とは、近代社会の諸制度(権力)を通じて作られた、規範へと服従する主体にすぎない。

⇒権力の構造/権力と知の結びつきを解明すべし

⇒自律的な主体とは実は権力に従う臣下に過ぎず、規範外のものを狂気とする⇒「人間(主体)の死」

○フーコーの権力論

<前近代>



<近代以降>

